平成２９年８月１７日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《８月度農場便り》

「恒例の高校生農業研修」
真夏というのに不順な天候が続き日照時間はこの１か月間は昨年の約 50%、東北地方に比べればまだ良い方ですが育ち盛りの野菜達にとっては厳しい環境です。毎年恒例の高校生の農業研修のプログラムの「播種から整枝・誘引、収穫」までの短期間での研修内容でしたが今回、収穫は何も出来ませんでした。それ以上に不順な天候は畑での農作業は数時間しか出来ず、ハウス内での秋・冬野菜の播種作業が主な内容となりました。それでも品目に応じて播種方法の違いを理解して頂こうと好光性の品目（レタス、人参）嫌光性の（大根、かぶ）、種の形状の違い等を組み合わせ単調な作業にメリハリを付けて楽しんで行うことが出来ました。ハウス内に設置してある育苗用の「踏込み温床」の醗酵後の役割を終えた落葉と米糠の残渣が 3 年後には育苗土になり、その土を使い播種する自然の恵みを活用する循環型農業は皆の関心を引いたようです。夜は夕食後 20 時から 21 時 30 分まで 90 分の小生の講話があります。今回は「固定種と土」をテーマに無農薬・無肥料自然栽培農法をお話させて貰いました。研修後の感想で今回参加して「農業の大変なことと野菜も生きる力を本来持ち合わせていることを研修で体験し人生の選択肢が広がった」と語る高校生に受け入れて良かったと疲れも軽くなるのでした。東京、神奈川の２校、先生も含め１５名の参加者に２日間、３日間という短期間の農業研修です。自然栽培農法の農作業を経験して頂くと同時にお米、野菜を食べて頂き、昼の肉体労働も手伝ってか普段食べているお米、野菜とは違う、美味しいと何杯もお代わりをする姿に女房も疲れが飛んだことでしょう。中でも神奈川の高校生で一人参加した女学生からお礼の手紙が届きました。農業大学に進学して専門的に農業を学び、将来は目的を同じくする農家何軒かで助け合う集落営農に挑戦したいという夢と研修に対するお礼の内容でした。責任の重さを感じると共に嬉しい思いが込み上げてきました。兎も角、若者達が「農と食」に一層の関心を抱いたことは確かです。いつまで続けられるか、というより高校がいつまで当農場を相手にして頂けるか一年でも長く現役でいたいものです。一方、自然栽培農業を志す後継者を一年でも早く育成していく所存です。会員の皆様、ご紹介お願いします。

・白菜の播種（8 月 8 日）

・人参播種後の籾殻覆土（8 月 12 日）

メール　yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp　　携帯０８０－３０８０－３０１７